

田口佳史さんに問う 【論語に学ぶ人間の本质】



講師

東洋思想研究家
株式会社イメージプラン代表取締役社長

田口 佳史 Yoshifumi Taguchi

『論語』を学んで、ぶれない自分をつくる

『論語』は今から2500年前に編まれた儒家思想の根本教典です。日本においても、古来最も広く読まれた書物だと言われています。『論語』がかくも幅広く読まれてきた理由は、その平易で明晰な文体と同時に、時代を超越して人々の心を打つ「人間の本质」が記されているからにほかなりません。

この講座では、40年以上にわたって中国古典思想の研究と普及に従事してきた田口佳史さんの導きで『論語』をひも解き、ぶれない自分をつくるための軸を探します。

田口 佳史

4/7 月

第1回

18:30～21:30

学ぶということの本质

私たちは、「自己啓発」「能力開発」という言葉を何気なく使っていますが、真の「学習」について、深く思索する機会はありません。「学習」は、知識やスキルを修得する(学ぶ)ことと、獲得した知識を実践し、自分のものとするまで習熟する(習う)ことではじめて完結するといわれます。三千人の弟子を育てたと伝えられる孔子の「学習論」に触れます。

4/21 月

第2回

18:30～21:30

規範はなぜ重要なのか

規範とは、人間の判断や行動の基準となるものです。儒家思想には、「四端五常」という簡潔かつ普遍的な規範があり、古くから日本社会の基底を形成してきました。急速に失われつつあるといわれる規範の意味を確認することで、自己を律し、社会を導くための根本原理を考えます。

5/12 月

第3回

18:30～21:30

競争をどう捉えるか

健全な競争は、努力の質を高め、創意工夫のもとになります。しかし、勝つこと、執着することが当初の目的を見失わせ、道を違えてしまうこともあります。真の競争とは、他者との競い合いではなく、自分自身に潜む「内なる敵」との戦いとも言えるでしょう。最後まで自己を見失うことなく、最善を尽くすことの大切さを理解します。

5/26 月

第4回

18:30～21:30

欲望に どう向き合うべきか

人間の欲望は、社会を発展させる原動力と言えますが、一方で、人を惑わせ、道を踏み外す元凶にもなりえます。欲望とどう向き合い、どのように制御していくかは永遠の課題とも言えます。人間の欲望を肯定しつつ、アクセルとブレーキを合わせ持つことが人生の醍醐味でもあることを再認識します。

6/9 月

第5回

18:30～21:30

社会で生きるということ

人間は社会的な存在です。社会は人に目標や希望を与え、豊かな人間性を育む場でもあります。儒家思想では、個人—家庭—会社—国家までを貫き通す本質的な原理があり、相互に関連しあっていることが説かれています。社会の中で生きるということの、根源的な意味と相互連環を問ひかけます。

6/23 月

第6回

18:30～21:30

人生における 成功とは何か

現代社会ほど、幸せの意味を問われている時代はありません。多くの人が飽食と消費に疲弊し、富や出世に執着することを嫌悪しながら、その呪縛から抜けられないでいます。私達は何を求めて生き、人生を通じて何を得ようとしているのでしょうか。総まとめとして、人生の成功とは何かを議論します。

臨済宗妙心寺派共催

古川周賢 老大師に問う 【禅の智慧】



講師

臨済宗妙心寺派 乾徳山恵林寺 副住職

古川 周賢

Shuken Furukawa

「捨てる」ことを通じて本当の自分を探る

禅とは「己事究明」のいとなみです。「己事」つまり「おのれ自身のこと」を究め尽くす。自分はいったい何者であり、何のために生きているのか・・・厳しく自分自身に向き合いながら、その答えを探していくのです。禅修行の中心には、自分自身としっかり向き合う「坐禅」。そして「坐禅」を通じて獲得した自分の体験をひっさげて、師匠に立ち向い、体当たりでぶつかっていく「禅問答」という二本の柱があります。

本講座では、まずしっかりとした指導に基づいた「坐禅」を行い、人生

をかけた師匠と弟子の真剣勝負の場である「禅問答」の世界に触れます。厳しい自己探求の修行の中から生まれてくる自由闊達な禅の精神の息吹を感じとり、先行きの見えない時代の中で、ぶれない軸を持った、本当の自分への道を探り当てていくことをめざします。

古川周賢

5/17 ±

第1回

14:00～17:00

臨済禅と公案

「禅の世界」は「修行の世界」です。修行の世界は、坐禅や禅問答はもちろん、「托鉢」や「作務」といった、日々の糧を得るための労働も、すべてが渾然一体となって成り立っているのです。そこで、まずはじめに禅の修行道場の営みの現場を学び、坐禅や禅問答がそこから生まれてくる背景を学びます。

5/31 ±

第2回

14:00～17:00

「放下着」(公開問答演習1)

禅の修行はまず「捨てる」ことから始まります。捨てることは、簡単ではありません。それでも、捨てて捨てて捨てて…。皆さんとの問答も交えながら、禅の基本である「捨てる」ための智慧を学びます。

6/14 ±

第3回

14:00～17:00

「無一物」(公開問答演習2)

「捨てる」修行がめざすものは、「無」の世界です。それは「無一物」と言われるような、塵一つない世界です。「無一物」の世界を知ることとはとても難しいのですが、皆さんとの問答を交えながら、「捨て切る」先に見えてくる「無」の世界を探ります。

6/28 ±

第4回

14:00～17:00

「己事究明」(公開問答演習3)

禅の本来の目標である「己事究明」の世界を学びます。「捨てる」修行を通じて初めて見えてくる、本当の自分自身の姿を、皆さんとの問答を交えながら捉えていきます。

7/12 ±

第5回

14:00～17:00

禅問答の世界

あらためて、「禅問答」の世界をいっそう深く学びます。修行の現場では問答に際して「公案」というものを用いますが、「公案」とは修行僧たちの命がけの修行の中から生まれてきた真剣勝負の記録です。この回では実際の「公案」のやりとりを味わいながら、禅の智慧を深く学びます。

7/26 ±

第6回

14:00～17:00

禅と現代社会

私たちが生きる現代社会の中において、禅の智慧がどのような意味を持つのかを考えます。これはすなわち、めいめいが自分自身の中に灯した「己事究明」の灯りを頼りに、激動の時代の中をぶれることなく歩いていくことにほかなりません。講座を通じて学んだものを、もう一度自分自身のものとして捉え直します。

橋爪大三郎さんのセミナー 【聖書とキリスト教】



講師 社会学者 橋爪 大三郎 Daisaburo Hashizume

西洋の政治・経済・社会を理解するにあたって、キリスト教の知識は必須である。

キリスト教は、2000年の長きに渡って西洋の思想・文化の根底にあり、近代の政治・経済・社会のあらゆる概念や制度に大きな影響を与えています。キリスト教の聖典である聖書は“永遠のベストセラー”として、世界中で読み継がれてきました。

ところが日本では、キリスト教に対する理解は表層的な部分に止まり、聖書を読む機会は（数少ない信者を除けば）ほとんど皆無と言っていいでしょう。聖書は、知ってみれば実はおもしろく読めるところも多く、興

味深い登場人物の物語が展開します。グローバル世界を考える際の必須教養としても、是非読んでほしい書物です。

本講座では、キリスト教への理解を深め、西洋社会を理解する思考の補助線とすべく、新・旧二つの聖書の特徴とあらましを、信仰を離れて解き明かしてみましょ。

橋爪大三郎

5/24 ±

第1回

10:00～13:00

旧約聖書を読むI 「創世記」

旧約聖書と新約聖書は、二巻本の上・下のような関係です。旧約聖書はユダヤ教の教典であると同時に、キリスト教やイスラム教にとっての聖典でもあります。第一回目は「創世記」を読みます。天地創造からはじまり、アダムとイブ、ノアの箱船などの有名なエピソード、最初の預言者である英雄アブラハムの物語から、イサク、ヤコブ、ヨセフと続く一族の歴史を辿ります。

5/24 ±

第2回

14:00～17:00

旧約聖書を読むII 「出エジプト記」

モーセは旧約聖書の中でも卓越した預言者であり、数々の奇跡を起こし、神との契約を交わした最重要人物として知られています。第二回は、モーセの生涯と彼の奇跡が意味するところを確認するとともに、シナイ半島の砂漠で信じられていた戦争の神ヤハウェイがイスラエルの民に浸透し、ユダヤ教が生まれるまでを紐解きます。

6/7 ±

第3回

14:00～17:00

旧約聖書を読むIII 「申命記」

モーセがシナイ山で神の啓示を受け、人々に語った言葉は、ユダヤ教の律法の中核をなし、人々の生活、法律、刑罰に至るまで事細かに規定しています。第三回は、この教えを具体的に詳述している「申命記」を読み解きながら、律法の意味するところを考えます。

6/21 ±

第4回

10:00～13:00

新約聖書を読むI 「マルコの福音書」

新約聖書にある四つの福音書には、イエスの生涯と彼が起こした数々の奇跡が詳らかに記されています。第四回は、「マルコの福音書」を読むことで、ユダヤ教の革新者であり、預言者であり、救世主であり、神の子であったイエスの多義性を理解し、キリスト教誕生の根源に迫ります。

6/21 ±

第5回

14:00～17:00

新約聖書を読むII 「ローマ人の信徒への手紙」

新約聖書の教義を説いているのが、イエスの弟子達が残した数々の書簡です。中でもパウロの手紙はその大部分を占め、キリスト教の教義確立と普及に決定的な影響を与えたと言われています。キリスト教成立の最大の功労者パウロの手紙を通して、キリスト教がローマへ（ひいては全世界へ）広がっていった理由を考えます。

7/5 ±

第6回

14:00～17:00

新約聖書を読むIII 「ヨハネの黙示録」

キリスト教の終末論では、世界の終わりには神の手によってあらゆるものが作り直されるとされています。いわゆる「最後の審判」と呼ばれる部分を読み解くことによって、宗教改革や資本主義との結びつきなど、キリスト教が近代に適応していった要因に敷衍していきます。

石川晶康先生 もうひとつの日本史講座 ～経済・社会から見た古代・中世の文化～



講師 河合塾講師 石川 晶康 Akiyasu Ishikawa

河合塾 石川先生による“もうひとつ”の日本史講座

縄文の火焰土器や土偶から感じられる「美」と「力」について。あるいは、奈良の大仏と平等院鳳凰堂の比較。古都「奈良」と「京都」の違い。ただ「美しい」「大きい」「古い」というだけの文化史の限界を超えることをめざす講座です。われわれの日々の生活には、古代から現代に至るまでの歴史が重なり合っています。本講座では「日本」の“文化”がどのように形成されてきたか。まずは、古代・中世の文化の成

立を政治・外交だけでなく、社会・経済のあり方から考えていきます。古代・中世文化と今の私たちの暮らしに息づいている文化を連続したものとして捉え、「日本」の文化の魅力を再発見する方法を、フィールドワークも交えて獲得したいと考えています。

石川晶康

4/12 ±

第1回

14:00～17:00

古代人のデザイン力

～縄文、弥生、古墳文化～

縄文土器や土偶、弥生時代の銅鐸に描かれた人物や動物、古墳時代の埴輪などから、古代の日本人の表現力、造形力を見出したいと考えています。豊かな感性を生み出した社会、経済は？多様な文化が展開された列島文化の基層を探ります。

4/26 ±

第2回

14:00～17:00

「日本」の誕生と宗教

～飛鳥、白鳳、天平文化～

「日本」という国が誕生し、仏教が受容されていく時期の政治の動向を、社会、経済から確認します。律令国家の成立が「日本」の文化の形成に果たした役割を確認しておかなければなりません。東大寺の大仏は「なぜ、あれほど大きいのか?」。そして伊勢神宮について。

5/10 ±

第3回

14:00～17:00

古典的古代国家とその文化

～弘仁・貞観、国風文化～

中国の文化を受容した貴族文化は、やがて日本人の感性や風土にあわせた独自の文化を産み出していきます。われわれの、日常生活のなかの「古代」文化をさまざまな角度から探っていきましょう。「古典」的な文化とは何かを確認することをめざします。

5/24 ±

第4回

14:00～17:00

フィールドワークⅠ

東京国立博物館を訪れ、縄文時代の土器や土偶、弥生時代の銅鐸、古墳時代の埴輪や鏡などの文化財に触れ、古代の人々の生活や精神そのものを、遺物のなかに見出すこと、実感することの大切さを確認したいと考えています。

6/7 ±

第5回

14:00～17:00

中世的な自由を求めて

～院政期、鎌倉文化～

社会、経済の変容のなかから誕生した中世社会の文化について考えてみましょう。絵巻物の世界から彫刻・建築など。おどろくほど豊かな中世文化を意識することをめざします。そして、中世人にとっての「神」について。

6/21 ±

第6回

14:00～17:00

集団の芸能と「幽玄」・「わび」・「さび」

～南北朝・室町文化～

南北朝の大きな変動と室町文化の背景を整理して、それが文化の各分野にどのような影響を与えたかを考えましょう。連歌に代表される集団の芸能、「わび」「さび」の世界。近世文化の母体となり、現代にまで伝わる中世の伝統文化を学びます。

7/5 ±

第7回

14:00～17:00

フィールドワークⅡ

能楽の鑑賞、または鎌倉探訪を予定しています。(詳細は別途ご案内)。芸能と信仰は中世の文化史でもっとも興味深いものです。

千宗屋さんと学ぶ 【茶の湯と日本の美】

講師 武者小路千家 家元後嗣 千宗屋 So-oku Sen



茶の湯とは、空間と関係性のなかで養われ、培われてきた、日本文化です。

一服の茶で人をもてなすなかで、いかに礼を尽くし、相手の心をつかみ、己をプレゼンテーションするか。目の前にあるいまと、いかに関わっていくか。茶の湯には、空間と関係性のなかで養われ培われてきた、日本人としての見方、考え方、感性があり、それらの方法論と形が存在します。

茶の湯を知ることは、日本文化の心を探究し、日本の美を堪能することです。皆さんに、茶の湯について知っていただくとともに、茶の湯を起点に、日本文化と一緒に深耕していきたいと思っています。

千宗屋

5/14 水

第1回

18:30～21:30

茶の湯の心

千利休をはじめとする450年前の茶人は商人が多数でした。茶人という趣味人や教養人というイメージがありますが、政治や経済の中心にもっとも近い場所にいた財界人つまり経営者やビジネスパーソンです。それだけに私たちが現代の文脈で引き寄せ、ヒントにできる本質があります。第1回は、茶の湯500年の歴史や系譜をふまえながら、現代にも生きる茶の湯の心や本質についてお話します。

5/28 水

第2回

18:30～21:30

茶室、空間と デザインの美

空間には、人間の思想やものの見方が大きくかかっています。茶を学ぶとは、単に茶室での礼儀作法を稽古することではなく、空間において養われ培われてきた日本人としてのものの見方や考え方を知ることです。本質を守るからこそ、茶室は時代・生活スタイルの変化に応じて、姿や形を変えてもきました。建築史やデザインの視点を交え、茶室のもつ空間の美について考えてみたいと思います。

6/18 水

第3回

18:30～21:30

数寄、名品を見極める 目と日本美術の心

ひとつの茶碗を「名碗」たらしめる理由はさまざまあります。道具でありながら美術品である茶道具には、見どころ、背景や物語の美、また目利きの法があります。名品とは何か、好みものとは何か、心眼とは何か、日本美術の粋とはなにか、どう道具を選びどう生かすのか。茶人の美意識をなぞりながら、また私自身の経験や考えを交えて、お話したいと思います。

7/2 水

第4回

18:30～21:30

もてなしとは、 気づかいと秩序の法

お茶のペースとなっているのは人間関係にほかなりません。ある相手に対しての自分にしかできないサービス「もてなし」。互いの理解から心を通わせる「直心の交わり」。一生に一度のめぐりあわせという覚悟と敬意をもって臨む「一期一会」。茶の湯には、人間関係とコミュニケーションを円滑にする工夫や知恵が込められています。日本人の心の美でもあるその本質について考えます。

7/9 水

第5回

18:30～21:30

茶の湯体験 茶室「重窓」において

市中の真ん中にある囲われた空間。一步踏み出せば世間の喧騒があるからこその緊張感や静けさ。日常にある非日常。「市中の山居」は、茶の湯の本質です。これを現代に置き換えるとどうなるか、思考した結果が私の茶室「重窓(ちょうそう)」です。皆さんに、私のしつらえた「重窓」でのお茶席を体験していただきながら、伝統と現代の暮らしをいかに共存させるのか、本質とは何か、考えてみたいと思います。

7/24 木

第6回

18:30～21:30

自服、自分の茶を 味わう

お茶を学ぶという最終的な目的は、お茶を通して自分はどのような人間なのかを考え、形にし、人にも伝えるということです。創意工夫、時代精神、独自の美意識、私はこの3つが茶の湯の起源だと思っています。日本文化の心をとらえ、自分の茶をどう点てるか。茶を点て味わいながら、皆さんと語り合ってみようと思います。

平田オリザさんと創る 【表現力を磨く演劇ワークショップ】



講師 劇作家・演出家
大阪大学コミュニケーション
デザイン・センター教授

平田 オリザ Oriza Hirata

©T.Aoki

演劇のメソッドで体感するコミュニケーションと表現

国際化時代におけるコミュニケーション能力とはなにか、なぜ、演劇や芸術に触れることがコミュニケーションのツールとして重要なのか、じっくりと考え経験していきます。

表現力やコミュニケーション能力がすぐに身につくとか、人生観が変わるといったキャッチーな触れ込みはありませんが、確実に、参加者の世界観

を広げるお手伝いはできていると思っています。

どなたでも参加いただけるメソッドで進めますので演劇経験の必要はありません。身体と頭と心をほぐし、表現力
テラシーを磨きましょう。

平田オリザ

4/9 水

第1回

18:30～21:30

コミュニケーション能力とはなにか

緊張をほぐし、リラックスした状態でプログラムに参加できるよう簡単なコミュニケーションゲームから始めます。さまざまなゲームを体験し、イメージを共有しやすいものから、次第にイメージを共有しにくいもの(人間の心)をどのように伝えるのか、コミュニケーションの本質を考えます。

創作1

戯曲の構造

4/30 水

第4回

18:30～21:30

受け手の想像力を見積もる

演出家には、観客の想像力の幅をある程度想定してプランを立てることが求められます。コミュニケーション、とりわけプレゼンテーションに必要な演出の技術について考えます。

テキスト3

観客の想像力を見積もる

創作4

プロットを練る

4/16 水

第2回

18:30～21:30

意識を分散する

人間は、ともしれば一つのことに意識を集中しがちです。演劇でも、台詞に集中するだけではリアルな演技をすることはできません。ここでは、台詞の意味内容に集中しすぎることなく、声の大きさ、トーン、表情、身体の動かし方などへ意識を分散するトレーニングを行います。

テキスト1

意識を分散する

創作2

設定を考える

5/17 土

第5回

10:00～13:00

物語の構造

私たちが生きる実人生は、複雑系のなかにあって曖昧であり、その一部分だけを切り取って表現することはできません。現実世界を表現するためには、誰もが理解できる普遍性を物語に折り込むことが大切です。古今東西の物語を支える普遍的な構造はなにか。創作を通じて、表現の本質を捉えます。

テキスト4

物語の構造

創作5

エピソードを集める

4/23 水

第3回

18:30～21:30

コンテキストをすり合わせる

一つの言葉から受けるイメージ、言語に関する行動は、国、民族、文化はもちろん、一人ひとり異なります。相手はどのような意味でその言葉を使っているのか、“コンテキストのズレ”に気づき、“コンテキストのすり合わせ”を体験することによって、コミュニケーションの本質を捉えます。

テキスト2

コンテキストとはなにか

創作3

登場人物を考える

5/18 日

第6回

10:00～17:00

創作の喜び・演じる楽しみ

演劇が持つ表現の可能性に最大限に触れます。グループ発表の準備、発表、講評、相互批評を通して、協働で無から何かを創り上げる喜び、演じる楽しみを味わいます。

創作6

台詞を考える グループ創作・発表



コラムニスト小田嶋隆さんの 【文章表現ワークショップ】

講師 コラムニスト **小田嶋 隆** Takashi Odajima

文章を書くということは、いつだって挑戦である

私は長くコラムを書いている。コラムとは、ある程度定められた枠内で自分の思いを主張する文章だ。ならば、書き方のコツといったものを会得しているのではないかと期待されるのだが、文章の書き方とはそう簡単に明示できるものではない。なぜなら、文章を書くということは、書き手の価値観や人生観と直結する行為であり、いつだって挑戦であるはずだからだ。

だから、このワークショップでは慣れや手順から生まれるのではない「自分らしい文章」にこだわって徹底的に考え、さまざまな表現方法に触れていく。

文章を書くという挑戦を、楽しもうではないか。

小田嶋隆

4/12

第1回

14:00～17:00

要約と把握 —描写力を鍛える

はじめに、文章を書くことへの苦手意識や恐怖を克服するために、描写力すなわち「書き起こす」力を鍛えよう。大切にしている自分の想いも、すばらしいアイデアも、うまく外に出すことができないから、悩み、ストレスに感じるのである。文章は、習得の困難な技芸ではない。一定の描写力が身につくと、書くことはおのずと楽しくなる。

課題 要約文を書く

4/26

第2回

14:00～17:00

手紙を書く —一人に向けた表現

文章は、読み手が限定されればされるほど、その文章には書き手の伝えたいこと、相手への理解、両者の関係性がくっきりと浮かび上がってくる。自分の言いたいことをそのまま書くのではなく、相手に伝わるように配慮した文章を書くことで、伝わる表現とはなにかを体感する。

課題 手紙を書く

5/10

第3回

14:00～17:00

思い出を書く —記憶は個性の宝庫

あなたが好きだと思う、魅力的だと感じる文章はどのような文章だろうか。テーマ、視点、言葉遣い、リズムなど、いろいろな要素があるだろう。読み手が魅力的だと感じる文章には、必ず個性がある。ではその個性はどこから生まれるのだろうか？自分らしい文章に欠かせない、記憶という宝の山から掘り起こそう。

課題 ○○時代の思い出を書く

5/31

第4回

14:00～17:00

表現の幅を広げる —会話体の魅力

文章における会話文は、ある種の無法地帯だ。会話中の言葉は、文章の中のそれより感覚的で、自由であり、結論を気にせずに展開だけを楽しめるという魅力がある。文章を賦活するスパイスとなるような、適切な会話体の用い方を理解する。

課題 会話体を交えた文章を書く

6/14

第5回

14:00～17:00

そぎ落とし、凝縮する —思わぬ表現との出会い

すぐれた文章、個性的な文章を書くために欠かせない要素の一つに「創造性」がある。創造性は、批評的な態度を捨て、書くための「アタマ」になりきり、ときに独善にいたるほどに独創的になることで、豊かになる。常識的な語法や理性的な表現、保守的な見解を超えた文章に触れ、自分の創造性を引き出す。

課題 キャッチフレーズを考える

6/28

第6回

14:00～17:00

レビューを書く —人を動かす文章とは

よい文章には一定の技巧と、読み手を納得させるに足るアイデアがなくしてはならない。最終回は、描写力と創造力を発揮して、読み手の心を打つ自分らしい文章に挑戦してもらおう。

課題 レビューを書く